バングラデシュ料理楽しむ 本場の味作って味わう会

料理を通じて外国の人との相互理解を深めようと、狛江市国際交流協会（吉野琢也会長）が9月27日㈯、西河原公民館で国際交流サロン「バングラデシュの料理を楽しみましょう」を開催、小学生からシニアまで約40人が料理作りや交流イベントを楽しんだ。

講師を務めたのは、狛江市でフードパントリーを催したり、本国で職業訓練支援などを行っている「NPO法人ニッポンベンガルフレンズサークル」（サラムMDアブドス会長）のバングラデシュ出身者を中心とした4人。参加者は4組に分かれ、バングラデシュ産のカリジラ米を使ったスパイスと鶏肉の炊き込みご飯「チキンビリヤニ」と野菜サラダ、チャイの調理に取り組んだ。参加者はスパイスの説明を受けたり、バングラデシュの家庭料理の話を聞くなど和気あいあいと交流を深めた。

料理の試食ではグループによって違うビリヤニの味比べをするなどして楽しんだ。

ビリヤニ作りに挑戦

ポニーと触れ合い楽しむ「ナナの家」であそぼう会

NPO法人福祉ネット「ナナの家」（皆河える子理事長）が10月13日㈪に西野川の小足立のびのび公園で「ポニーとあそぼう会」を開催、乳児や小学生の親子など約30人が餌やりなどを体験した。

同会は障がい者が地域で幸せに

ポニーに餌やり

暮らせる社会の実現を目指し、障がいのある子のデイサービス事業などを行っている。同会では令和元年からポニー２頭を飼育、職員とデイサービスを利用する子が世話をしている。

ポニーとあそぼう会は、地域との交流活動の一環として年３回開催。この日はデイサービスを利用している小・中学生がポニーの名前などを紹介、餌やりの実演を行った。続いて参加者がニンジンやリンゴを与えたが、初めは怖がっていた子も次第に慣れて、ポニーの体を触ったり綱を引いて園内を回ったり、背中に乗って記念撮影をして触れ合いを楽しんだ。

24日㈪午前9時30分に行われるあそぼう会の事前予約を受け付けている。

問い合わせ・申し込みは☎5438-2773ナナの家。

福祉施設が自主製品販売 市役所で上手いもの市

市内の福祉施設が自主製品を販売する「上手（うまい）いもの市」（上手いもの市実行委員会・狛江市主催）が９月25日㈭・26日㈮に市役所２階ロビーで開かれた。

この催しは、障がい者への理解

上手いもの市

と市内の障がい者福祉事業所を知ってもらうとともに、施設利用者の作業の意欲を高め、社会参加の機会を提供することを目的に令和元年から毎年春と秋に狛江駅周辺などで開催している。

初日はひかり作業所、ワークインメイ、ポンテ、麦の穂、２日目はえるぶ、パサパ、ワークひなた、カレーショップメイ、こまえ工房が焼き菓子、パン、ジャムなどの食品や手作りのアクセサリー、手織りなどの自主製品を利用者も参加して販売。市役所を訪れた人などが次々と訪れ、焼き菓子などの食品類が好評だった。

戦没者・戦災殉難者追悼式 戦後80年、平和の誓い新たに

戦没者・戦災殉難者追悼式が9月28日㈰に西河原公園にある戦没者慰霊塔前で開催され、遺族や関係者などが参列した。

これまで狛江市戦没者遺族会（武藤孝行会長）が毎年「戦没者追悼式」として催していたが、終戦から80年を機に、今年から狛江市と共催とし、名称も変更した。

式では松原俊雄市長が「先の大戦が終結して80年という歳月が過ぎました。私たちは先の大戦から学び取った教訓を忘れることなく、世界の恒久平和を願うとともに、先人が築き上げてきた歴史や文化を糧としながら力強く歩んでいくことをここに誓います」、武藤会長が「先の大戦では310万人の日本国民の命が失われ、この慰霊塔にも258名の戦没者の名前が刻まれています。昭和55年10月に遺族会と多くの市民の協力によりこの塔が建立されました。戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代の若い子や孫たちに確実に伝えるこの塔を守り続けることが遺族会の使命でもあります。戦争のない平和な社会の実現と私たちのような遺族を作らないことを誓います」

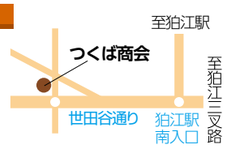
慰霊塔に献花する参列者

と追悼の言葉を述べた。

続いて参列者が慰霊塔に白い菊の花を手向け、戦争で亡くなった人々をしのぶとともに、平和への誓いを新たにしていた。

Shop & Service Guide …50 いらっしゃいませ

㈱つくば商会



つくばクリーニングを運営する㈱つくば商会は狛江市の6店舗をはじめ世田谷区、調布市、川崎市多摩区・麻生区に直営やフランチャイズの17店舗を展開、近年は「まごころサポート」と名付けた家事援助などのシニア向けサービスにも業務の幅を広げている。

本店が入る世田谷通りに面した4階建てのビルにはクリーニング工場があり、社員約160人のうち約40人のスタッフが洗濯機やドライクリーニング、衣類のしわを伸ばす最新の機械を使って、店舗から１日4回運ばれてくる多い時には約5,000点に達する衣類のクリーニング作業を行っている。

衣類のクリーニング手がけ 66 年 SDGs や地域貢献にも取り組み

工場で作業するスタッフ

本店ー☎3489-5545　東和泉1-34-22、営業時間=午前9時～午後7時（日曜日・祝日午前10時～午後6時）、木曜日休み

同社では「“気持ちいいね”が、いつもある。」をキャッチフレーズに素材に合った洗いと仕上げを大切にしており、ドライクリーニング、ワイシャツクリーニング、デラックスクリーニングに加え、黄ばみの除去や超撥水ガード加工などの特殊加工クリーニングも行っている。受付窓口の接客に配慮しており、顧客と相談して洗濯方法を決めるほか、しみ抜きなどのオプション作業、裾やウエスト直し、ボタン付けなどの修理に応じている。また、受付時に衣類やボタンの素材、えりや袖口の汚れ具合、ポケットの中など衣類の状態の確認に力を入れており、工場でも洗濯前に確認するダブルチェック体制を取っている。最大６カ月間の保管サービスや集配サービスも有料で対応している。クリーニング師の国家資格を持ったベテラン社員の指導でスタッフの技能向上にも力を注いでいる。

同社は茨城県つくば市出身の坂入稔さん（故人）が現在の場所で個人経営のクリーニング店として昭和34年に創業、今年で66年の歴史を持つ。42年に法人化し、令和２年に跡を継いだ現社長の三上雄二さんは３代目にあたる。

SDGsや地域貢献に積極的に取り組んでおり、ハンガーの回収をはじめ、市立中学校のPTAが行っている標準服リユースへの協力、着なくなった衣類やおもちゃなどを各店舗に回収箱を置いてリユースする「PASSTO」事業への取り組み、、災害時に本社でくみ上げている水を市民に提供、クリーニングを届けるシニア宅の見守り、店舗が子どもの緊急避難先となる「こどもみまもり110番」なども行っている。また、災害時に被災者へ送る支援物資の衣料を洗濯する協定を狛江市と結んでいる。

９日から火災予防運動 自宅に消火器備えよう

秋の火災予防運動が９日㈰から15日㈯まで行われる。

東京消防庁管内では今年9月29日㈪までに3,757件の火災が発生し、死者は61人にのぼった。このうち、住宅火災による死者は51人で8割以上を占める。

住宅で火災が発生し消火器を使った場合は7割以上で被害の軽減が見込まれ、自宅に消火器を備えることが大切であると示している。

消火器は普通火災だけでなく、天ぷら油やストーブ、電気など

が原因の火災に効果があり、持ち運びやすく、取り扱いが簡単なため、早期の初期消火と高い消火能力が見込まれる。

これから本格化する冬は空気が乾燥し、暖房器具の使用が増えて住宅火災が急増する。狛江消防署では消火器を備えるとともに、古くなった住宅用火災警報器を交換するよう呼びかけている。

問い合わせ☎3480-0119狛江消防署。